

明日に向かえ！ 若き獅子たち 期待の1年次生選手

松本 侖 バスケットボール部・経営・福岡大附属大濠高 ベンチ入りメンバーとして多くの試合に出場



自信をつけプレーに幅

高校時代から全国のトップで戦い、ジュニア代表として世界をも相手にしてきた。1年次生ながらリーグ戦、インカレとベンチ入りを果たす。ゲームの流れを変える場面での起用は期待の表れだろう。174センチと体は大きくないが、それを補って余りあるスピーディーなプレーが持ち味だ。「自信をつけることで思い切ったプレーが出来る。そのために練習から意識を高めている」と話し、練習に裏付けられた豊富なプレーと純粋にバスケットを楽しむ姿勢が見る者を引きつける。

将来はチームを引っ張る中心選手になることを期待せずにはられない。今後の活躍に注目してもらいたい。(松本 旬平・経済1)

柿原 美緒 バスケットボール部 経営・滋賀女子高 貴重な控えとして1年次生で唯一全試合出場



目標は長南(経営3)先輩

昨年12月に行われた全日本学生選手権で準優勝を遂げたバスケットボール部(女子)。柿原は、控えとして、1年次生で唯一全試合に出場している。

小学校3年生の時にバスケットを始め、高校時代には全国大会出場、全日本ジュニア候補に選ばれるなど素晴らしい実績を持って専大へ。チームの先輩である長南真由美(経営3・山形市立商高)のようなテクニックと力強さを合わせ持つ選手になりたいという。

「今はバスケットをやっている時が一番楽しい。これからはもっと試合に出たい」と話す彼女。その顔からは、バスケットが本当に好きだということが感じられた。(久我 智也・文1)

トン ジョウ 卓球 商・中越高(新潟県) 新人戦、女子S・W同時優勝、全日本学生S3位



言葉の壁も克服へ 1部復帰へ全力で

卓球好きの父の影響で、小学校の頃から卓球を始めた。昨年、全日本学生卓球選手権の女子シングルスで3位入賞など、目覚ましい活躍を見せている。

中国から日本に来て3年目。今でも日本語は難しいと話すが、言葉の壁にも負けず、前へ前へと力強く進んできた。卓球をやっていて良かったことは？ と尋ねると「卓球を通して、たくさんの人たちと出会えたこと。そして助け合い、多くの人に支えてもらったこと」と明るく答えてくれた。

「去年の秋、2部に落ちたので、今年は1部上がるのが目標。自分に負けたくないよう頑張りたい」と語る彼女の目には強い決意が見られた。(矢口 蘭・文1)

原 雅彦 卓球部 商・青森山田高 男子ダブルスで関東学生、全日本学生に優勝



スランプ乗り越え 世界挑戦も視野に

昨年10月の全日本学生卓球選手権男子ダブルスにおいて、見事優勝を果たした。中学生のころにはダブルス、シングルスともに全国大会優勝を成し遂げ、その才能は早くから開花していた。そんな原が今までで一番つらかったのは、高校時代スランプに陥ったときだと言う。「いろいろと悩んだが、辞めようと思ったことは一度もない」と語る姿からは卓球に対する情熱が伝わってくる。

全日本学生選手権ダブルス連覇、そしてシングルス上位入賞という今年目標に向け、この冬も猛特訓中。「将来は世界に出て活躍したい」と大きな夢を語る原の顔は自信に満ちていた。(末永 恵・文1)

竹内 巧磨 ラグビー部 経営・秋田工高 U-19日本代表に選ばれて国際試合も経験



レベルアップを図りさらなる“成長”へ

力強いタックル。土ぼこりを上げて駆け抜ける速さ。竹内は、その激しいプレイで観衆を魅了するルーキーランナーだ。

昨年アジアユース大会ではU-19日本代表に選ばれ、国際試合を経験し、関東大学リーグ戦でも1年次生ながら多くの試合に出場。「充実した1年だった」とさわやかに振り返る。

中学3年でラグビーを始め、高校では全国大会にも出場した。今一番感じるのはこれまでとのスケールの違いだそう。「大学では体も技術も全てレベルアップが必要」と言う。

成長を続ける彼がどんな花を咲かせるのか。声援を送り続けたい。(日下石 聡子・文1)

横山 倫子 ゴルフ部 文・香川西高 朝日杯準優勝、日本女子学生5位の実力派



強さ支える練習量 目標は大学日本一

昨年の朝日杯争奪全日本女子学生ゴルフ選手権で、優勝こそ逃したものの見事2位入賞を果たした。1年次生ながら数々の大会で活躍し、その強さを示した。「満足はしていないが大学1年目で、プレーする環境が変わった中、まずまずの結果を残せたと思う」と振り返る。

強さの秘密は何なのか。それは膨大な練習量にある。そんな努力家の彼女に今年の抱負を尋ねると「部員と共に向上しながら全国女子大学ゴルフ対抗戦優勝を目指す」と力強く語ってくれた。

文学部に在籍し、「勉強にも励みたい」と意欲を見せる。来シーズンの活躍も大いに期待出来そうだ。(伊東 明希・文1)

【ニュース専修1月号15面】

ウインタースポーツ/シーズン真っただ中 スキー、スケート部上位入賞

ウインタースポーツのシーズンを迎え、スキー部、スピードスケート部がさまざまな大会で上位入賞を果たしている。今後の成果に期待したい。(高橋 伸明・文2)

◇スキー部

▽つべつカップ回転競技大会(12月7日、北海道津別市)4位＝服部七穂(経営2・双葉高)

▽白滝北大雪クロスカントリースキー大会(12月16日、北海道紋別郡白滝村)スプリント男子7位＝樋口吉和(商2・十日町高)、同女子4位＝田村直美(商4・飯山南高)、女子5キロフリー2位＝田村直美、6位＝加藤代志子(文1・鶴来高)

▽野辺山スラローム競技会(12月27、28日、長野県南佐久郡南牧村)2位＝山崎由加里(経営2・富良野高)

▽全日本学生アルペンチャンピオン大会(1月7日、長野県志賀高原)女子回転3位＝清澤恵美子(経営2・歌志内高)

◇スピードスケート部

▽全日本選手権(12月12～14日、苫小牧ハイランドスポーツセンター屋外リンク)総合5位＝出島茂幸(商3・釧路商高)、7位＝川岸祐貴(経済3・池田高)

▽全日本学生選手権(12月18、19日、群馬県総合スポーツセンター伊香保リンク)スプリント競技2位＝川端文平(商3・池田高)、11位＝依田幸一郎(経営2・佐久長聖高)、総合競技7位＝井出智秀(商2・小海高)、8位＝荒倫宏(商2・池田高)

▽全日本スプリント選手権(12月23～25日、日光霧降スケート場)総合16位＝西村誉士(経営3・白樺学園高)

【ニュース専修1月号15面】

女子テニス・関東大学対抗 専大が見事に優勝 新チームに手ごたえ

女子の関東大学対抗テニス選手権が11月29日から12月14日まで、亜細亜大学ほかで行われ、専大は見事優勝を果たした。

明海大、日大を相手に快調に勝ち進み、決勝で亜大と対戦。苦戦を強いられながらも3-2と勝利を収めた。藤原望(経営3・飛翔高)は「新チームになって初めての大会で良いスタートが切れて良かった」と優勝の喜びを語り、「これからもチーム一丸となって優勝を目指していく」と力強く抱負を述べた。

これからの更なる飛躍も大いに期待出来る。専大テニス部から今年も目が離せない。
(井上 寸子・文2)

【ニュース専修1月号15面】